

二〇一〇年度内に開業予定の東北新幹線新青森駅。JR青森駅から約三キロ離れたこの駅の隣に、トヨタレンタリース青森(青森市)や日産レンタカー青森(同)、ニッポンレンタカー東北(仙台市)など六社がレンタカー基地を建設する計画を進めている。鉄道駅に設置する大規模な共同レンタカー基地は全国でも初めて。約三百台分の駐車場を備え、六社の受付窓口が入居する建屋を設置する。ガソリン高の影響もあり、マイカーで青森に

## 縮むクルマ経済

ていた人が、新幹線を使って最寄り駅からレンタカーを利用するようになるとの読みもあり、思い切った投資に踏み切った。実際、長距離を走る

クルマは減っている。日は新たなニーズに対応し本自動車工業会の調べで、は〇七年の平均走行距離は月間四百三十キロと一九九五年に比べ五十キロも短くなった。クルマの使い方が変わった。必要な時だけ借りたり、数人で使い分

### 新たな利用法模索

## ライバル鉄道とも共存

が中心で商用車や軽自動車に設定していたが、買



トヨタなどはJR北海道のDMV開発に協力する。一般の人にも需要が広がる。トヨタ自動車とグループ会社の日野自動車は、JR北海道が進める線路と道路の両方を走れる「デュアル・モード・ビークル(DMV)」の開発に参加する。トヨタがマイクローバ

独自に開発していたが、乗車定員を増やすなどの課題解決のため、トヨタと日野に協力を要請。交通手段の多様化が進むなか、今後必要な技術になる「日野自動車」として参加を決めた。「街乗り」専用車の開発も進む。トヨタは年内に四人乗りとしては世界最小の「iQ」を日欧で発売する。全長二・九八メートル、市街地での使いやすさに配慮した。三菱自動車も電気自動車も「小型で環境性能に優れ、大都市を中心に潜在需要が大きい」と(益子修社長)と街乗りを意識する。駅までは自家用車を使い、都心へは鉄道に切り替えるパーク・アンド・ライド。次世代の交通システムとして、世界各国で実験が進み、そこに商

機も生まれる。時間貸し駐車場を運営するパーク24は東武鉄道と組み、鉄道と駅前駐車場を両方利用するドライバー向けの割引サービスを始めた。駐車料金を精算する際、首都圏の私鉄共通IC乗車券「PASMO」をかざす。電車の乗車履歴データが送られると料金を二百円割引が発見された。以前は車と鉄道は競争相手だったが、今は協力が欠かせない。環境への意識の高まりもあり、クルマの使い方を直すことは世界的に共通した課題だ。日本は保有台数が減り始めており、いち早く利用方法を変えたい。世界的に縮小という逆風は世界先駆けて新たな事業モデルを築く好機でもある。